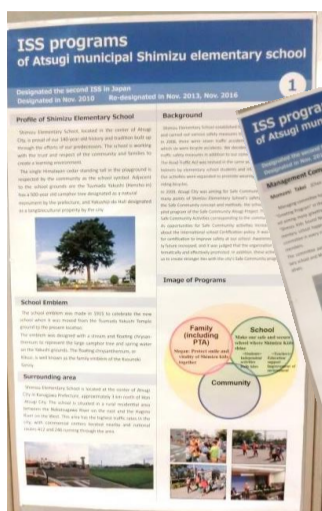


# 輝け！しみずっ子

## 「子どもたちを安心・安全な生活づくりの担い手に」



アジア会議で、本校の取組をポスター展示していただきました



校長 富岡 薫

清水小学校は、2010年11月、日本で2番目に国際シヨナルセーフスクール（ISS）の認証を取得し、それ以来、ISSの活動に継続して取り組んでいます。

「ISS（International Safe School）とは、体および心のケガ及びその原因となる事故、いじめ、暴力を予防することによって、安全で健やかな学校づくりを進める活動です。」「セーフスクール（ISS）に認証されるということは、けがや事故のリスクがない100%安全な学校として認められるのではなく、安全な学校づくりのための仕組みが確立され、機能していることが認められたということです。」

（日本セーフコミュニティ推進機構 HPより）

ISS活動は、学校（児童・教職員）・保護者・地域が協働して安全の向上を進めるものであり、また、地域内・国内・国際的なネットワークに継続的に参加することも含まれます。10月、11月は、秩父市立花の木小学校の現地審査、そして、小中学校連携の仲間である妻田小学校・睦合東中学校の現地審査・認証式へ参加しました。また、「セーフコミュニティアジア地域会議厚木大会」では「国際シヨナルセーフスクール連絡会」「セミナー 国際シヨナルセーフスクール」に参加させていただきました。他校のISS活動の様子を学び、実感したことは、どの学校も児童・生徒を将来の安心安全な社会生活づくりの担い手と捉え、児童・生徒の主体的な活動を大切に実践していることでした。

本校においても、児童委員会活動を「やさしい心チーム」「健康サポートチーム」「明るい環境チーム」「みんなに発信チーム」に分け、「あいさつ運動」「不適切なけがを減らすための取組」「4本のヒマラヤ杉キャンペーン」をはじめとする児童が考える安心・安全のための活動を行っています。また、総合的な学習の時間で「地域安全マップづくり」「自分たちで課題を発見し、できることに取組むISS活動」など、来年度の4回目の認証取得をめざし、児童が主体となって考え、計画・実行し、振り返る過程を大切に取組を進めています。ISSギャラリーは、現在リニューアル中ですが、リニューアル後にご来校の際には、児童のISS活動の取組を知るためにお立ち寄りください。

## 「しみずっ子☆輝きストーリー」

給食の時間が終わり、チャイムが鳴ると子どもたちの掃除場所への移動が始まります。「走らないで」「歩こうね」高学年のお兄さん、お姉さんが声掛けをしてくれます。

清水小学校は、縦割り清掃に取り組んでいます。異学年の子供たちが集まって、清掃を行います。下学年の子どもたちにとっては、どの清掃場所に行ってもお兄さん、お姉さんが掃除の仕方を教えてくれます。上学年の子どもたちにとっては、下学年の子たちの手本となるためにがんばることができます。

6年生の後について2年生がほうきではき掃除をしていたり、お兄さんがほうきのごみを取っているのを見て、1年生の男の子が自分の使っていたほうきのごみを一生懸命取り始めたりする姿を見ると、とてもほほえましく思います。掃除の反省会の時、6年生がみんなに声をかけしっかり反省している姿を見ると、とても頼もしく感じます。

もちろん、まだ掃除にちゃんと取り組めなかったり、途中ふざけてしまったり、おしゃべりしてしまう児童もいます。でも、縦割り清掃の良さを生かし、子どもたち同士で声を掛け合い、しっかり掃除できるしみずっ子になってくれることを願い、これからも毎日掃除に取り組んでいきます。がんばれ！ しみずっ子！！



# 個に応じた教育環境～「国際教室」を紹介します！



清水小には、「国際教室」という「日本語指導の必要な児童」のための教室があります。長期間外国に居住し帰国したばかりの児童や外国籍児童のなかには、日本語で日常会話が十分にできない悩みを抱える児童もいます。話しかけられる言葉が、全く理解できなかつたら、とても不安ですよ。こうした児童にとっては、日本語で学び、学校生活を送ることは困難を伴います。また、日常会話ができて、教科学習に必要な日本語を理解することが難しく、学習活動への参加に支障が生じる場合もあります。このような児童のために、それぞれの日本語の力に応じたカリキュラムで学ぶシステムがあります。この中心を担うのが、「国際教室」です。



現在、清水小学校では、30名の児童が、国際教室で学んでいます。それぞれの日本語の学習状況に応じて、週に1～2時間、教科学習の理解を深める児童もいれば、毎日のように国際教室で日常会話を学ぶ児童もいます。個別指導、グループ指導、通常の教室への入り込み指導（担当教諭が通常の教室へ出向くスタイル）等、様々な学び方をしながら、頑張っています。



通常の教室から国際教室に行くときや帰るときには「いってきます」「いってらっしゃい」「ただいま」「お帰りなさい」と児童同士の声掛けがあり、温かくてすてきだなと感じます。

言語や文化、いろいろな違いがあつて当たり前、「みんな違って、みんないい」そんなコミュニケーションを国際教室に学びに行く児童も送り出している児童も、毎日の学校生活の中で身につけられることは、とても良いことです。

## 「つながり」のなかで、豊かな学びを！

### 「ふれあい九九ルーム」にPTA、地域の方が来てくださいました。！



2年生の九九の習得は、小学校「算数科」において、とても重要なポイントです。完璧にマスターするには、繰り返しの練習と、子どもの唱える九九を聴いて温かく励ましてくれる存在が不可欠です。

10月末から、水、木、金の昼休みに開設した「ふれあい九九ルーム」に、PTAの方、地域の方がボランティアとして、参加してくださいました。

今練習中の九九を少しでも早く覚えて、次の九九に進もうと、子どもたちは、張り切っていました。地域の方も、子どもたちの一生懸命な様子に触れて、「いやされたよ」とおっしゃってくださいました。来年度は、さらに多くの方に協力していただくと嬉しいです。

### 「小中学校連携事業～中学校の先生の授業を受けました！！



小中学校9か年の学びの連携を深めるために、相互授業参観をはじめ、様々な連携を行っています。

11月20日(火)睦合東中学校の数学の先生が、6年生の授業を参観し、6年生に算数の授業を行ってくださいました。ちょっと緊張した面持ちの児童の心をほぐすアイスブレイキングとして、九九に関係する指遊びをしてくださいました。そして、初めての「反比例」の学習です。一人一人が、2つの数の関係性を体感できるよう、図形や表を使って分かりやすく授業を行ってくださいました。

子ども達は、「とても分かりやすかった。」「中学校の先生の授業を知ることができた」などの感想を持ったようです。あと、4か月あまりで中学校へ進学する6年生にとって、貴重な体験となりました。